

b_kankyo/230301.html

農山漁村文化協会 1982. 農業技術体系 作物編, 2, イネ 基本技術① 追記第4号, p. 220, 東京.

塩野ら 2014. 積雪寒冷地の稲わら春すき込み水田における田畑輪換がメタン・一酸化二窒素発生に及ぼす影響. 土肥誌, 85, 420-430,

塩野ら 2016. 積雪寒冷地低地土稲わらすき込み水田における耕起法の違いが翌年のメ

タン, 一酸化二窒素発生量に及ぼす影響. 土肥誌, 87, 101-109,

塩野ら 2019. 日本海側積雪寒冷地の稲わら施用水田におけるメタン発生量の年次変動と中干し期間の延長によるメタン発生量の低減効果 第2報 中干し期間の延長によるメタン発生量の低減効果と水稻生育への影響. 土肥誌, 90, 193-200,

高井康雄 1961. 水田土壌の還元と微生物代謝 (5). 農業技術 16 (5), 213-216,

Yagi, K. *et al.* 1996. Effect of water management on methane emission from a Japanese rice paddy field: Automated methane monitoring. *Global Biogeochemical Cycles*. 10, 255-267.

山形県農林水産部 2010. 稲作指針

田畑の草種

子持ち万年草 (コモチマンネグサ)

4月から始まっているNHKの朝の連続テレビ小説「らんまん」。高知が生んだ植物学者牧野富太郎をモデルにした物語で、各週の番組タイトルに植物名が振られている。第1週の「バイカオウレン」に始まってその第12週が「マルバマンネグサ」。主人公の榎野万太郎は婚姻のための高知へ戻っていたがそこへロシアからの手紙が東京経由で送られてきた。そこにはロシアのマキシモヴィッチに送っていたマルバマンネグサが新種 (*Sedum makinoi* Maxim.) であると記され、*Sedum* 属の中の新種の種小名に *makinoi* の名がついた。

東京に戻った万太郎こと牧野富太郎は、かねてから構想していた日本の植物誌として「日本植物志圖篇」を自費で刊行を始めた。第1巻第1集に記載された種はわずか6種であったが、1ページに1種という大胆な圖篇はその序文に「一葉ノ紙上一種ノ植物ヲ描出シテ決シテ他種ノ紙面ヲ犯スコト勿ラシム是レ後日大成ノ功ヲ見ルノ時ニ當テ天然ノ分類ニ從テ容易ニ編次ノ舊態ヲ改更スルノ便アレバナリ」と書いたように、将来、各種を並べ替えて植物志を完成させることを考えていた壮大な計画であった。

その「日本植物志圖篇」の第7集以降は「我邦ノ新植物ニ對シテ始メテ新學名ヲ下シテ之レヲ本集デ公ニ」した圖篇で

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

あった。

マルバマンネグサがマキシモヴィッチから新種として献名されてから3年、圖篇の第10集にマルバマンネグサの同属他種であるコモチマンネグサが載せられた。他のマンネグサと異なり、花は咲いても種子が出来ず、代わりに葉の付け根にできる無性芽で殖えていく。これが新種と気づき *Sedum bulbiferum* Makino の学名を与えた。今度は同じ *Sedum* 属に命名者として Makino の名がついた。

コモチマンネグサはベンケイソウ科マンネグサ属の一年草。本州の東北南部以南のやや湿った道端、畦、畑地、空き地などに普通。背丈は5-6cmくらいで、大きなものでも15cm程度。茎は下部では地を這うが上部では立ち上がる。茎が赤みを帯びることも多い。葉はやや間隔をあけてつき長さ1-2cmで扁平なへら型。多肉質で厚みがある。花は12-15mmの黄色の5弁花。花弁は細長い楕円形で先が尖り星形。咲いているときはちょうど星が輝いているように見える。種子はほとんどできず花茎の途中の葉の基部にできるムカゴで殖える。マンネグサ属でムカゴができるのは本種だけであるので同定は容易い。